◆ 当商品をご使用になる前に必ず本取扱説明書をよくお読みください。

DIGITAL PIANO

PN85

取扱説明書

KAWAI

●同梱品

本体/スタンド一式/ACアダプター/取扱説明書（本書）/スタンド組立図/保証書/ご愛用者カード/アフターサービスと音楽教室のご案内（全て各1部）

《ごあいさつ》

このたびは、KAWAI 電子ピアノをお買い求め頂きまして、誠にありがとうございます。
本機では、ピアノ音色をはじめ全8種類の音色で演奏を楽しむことができます。また、自分の演奏を録音する機能，デュアル演奏など多彩な機能を装備しています。さらに、電子楽器統一規格であるMIDI機能も装備していますので、他のMIDIを装備した電子楽器と接続してアンサンブル等、バラエティーに富んだ演奏にも対応できるようになっています。
本機の性能をフルに発揮させていただくとともに、いつまでも末永くご愛用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さるようお願い致します。

目次

1.各部の名称と働き 4

2.演奏してみましょう 6
1）基本操作 6
2）ペダルを使って演奏 8
3）デュアル演奏 9
4）トランスポーズ 10
5）デモ曲の演奏 11
6）メトロノーム 12

3.録音・再生 14
1）録音 14
2）再生 17
3）曲の消去 18

4.設定モード 19
1）タッチカーブ・セレクト 20
2）チューニング 20
■ MIDI 機能の使い方 21
●本機 MIDI 機能 22
3）MIDI送信・受信チャンネル 23
4）MIDIチャンネルを1にする 23
5）ローカルコントロール 23
6）マルチティンバー・モード 24
7）プログラム（音色）ナンバー送信 24
8）リセット 25

■ 主な仕様 26
MIDI IMPLEMENTATION CHART 27

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守って下さい。表示と意味は次のようになっています
製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。

注意 感電の危険あり 本体をあけるな 注意：火災や感電防止のため、本体を雨や湿気の多いところに、さらさないで下さい。	このマークは、感電の危険があることを警告しています。 このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

絵表示の例

△記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。
左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。

○記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。
左図の場合は「分解禁止」が描かれています。

●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。
左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。

⚠ 警告

◆電源は、必ずAC100Vを使う
100V以外禁止
●電圧の異なる電源を使用しないで下さい。
●発火の恐れがあります。

◆水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない
濡れた手で触らない
●感電の原因になります。

◆本機を落とさない
落とさない
●運搬の際は、必ず2人以上で運んで下さい。

◆イスは次のように使用しない
使用しない
●イスで遊んだり、踏み台にしない
●イスには2人以上で座らない
●イスの高さ調節は、イスから降りて行う（調節機能付きの場合）
●蓋の開閉はイスから降りて行う
●イス組立時、ネジをしっかり締める
●イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。

◆ヘッドホンは、大音量で長時間使用しない
長時間使用禁止
●聴力低下の原因になる恐れがあります。

◆本機を分解、修理、改造しない
分解禁止
●故障、感電、ショートの原因になります。

◆電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く
プラグ部分を持つ
●コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆長時間ご使用しない時は必ず電源プラグを抜く
プラグを抜く
●落雷時に火災の原因になります。

⚠ 注意

◆本機を次のような所では使用しない

●窓際など直射日光の当たる場所
●暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
●戸外など極端に温度の低い場所
●極端に湿度の高い場所
●砂やホコリの多い場所
●振動の多い場所

使用禁止

●故障の原因になります。

◆鍵盤蓋は、ゆっくりしめる

ゆっくりしめる

●いきおいよくしめると、指をはさみ、けがの原因になります。

◆コード類を接続するときは、各機器の電源を切って行う

電源を切る

●本機や接続機器の故障の原因になります。

◆本機の内部に異物を入れないようにする

異物を入れない

●水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

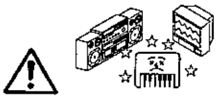
◆本機の鍵盤にもたれない

もたれない

●本体が倒れる恐れがあり、けがの原因になります。

◆テレビやラジオ等の電気機器の側に置かない

他電気機器から離す



●本機が雑音を発する恐れがあります。
●本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用下さい。

◆電源コード、接続コード類はからまないように接続する

からまないようにする

●コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

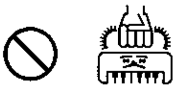
◆ベンジンやシンナーで本機を拭かない

ベンジン／シンナー禁止

●色落ちや、変形の原因になります。
●清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いて下さい。

◆本機の上に乗ったり、圧力を加えない

上に乗らない



●変形したり、倒れる恐れがあり、故障や、けがの原因になります。

●ヘッドホン使用時、または音量下げて演奏の際は、構造上打鍵音（メカニズム音）が若干聞こえますが異常ではありません。ご了承ください。

■保証書について

●本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行って下さい。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

●保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管下さい。

■修理について

●万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡下さい。

1.各部の名称と働き

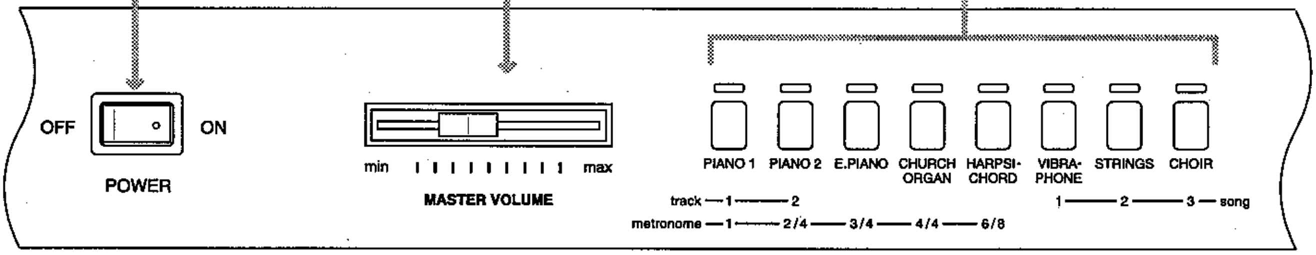
●操作パネル

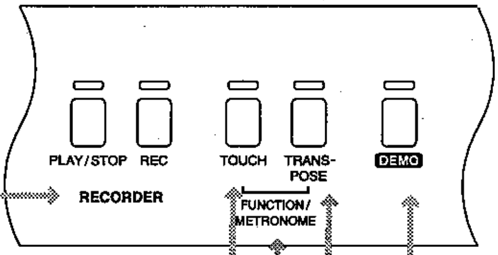
電子ピアノに付いている、レバーやボタンなどの位置とその機能を説明します。

●POWER
（電源スイッチ）
電源をON/OFFするスイッチです。ご使用後は必ず電源スイッチを切ってください。(P.6参照)

●MASTER VOLUME
（マスター ボリューム）
内蔵スピーカーやヘッドホンから出力される音量を調整します。max側にいくほど音量が大きくなり、min側にいくほど音量が小さくなります。
(P.6参照)

●音色セレクトボタン/音色名表示
音色を選択するボタンです。演奏したい曲目などに合わせてボタンを押してください。押されたボタンの赤いランプが点灯します。(P.7参照)





●RECORDER（レコーダー）
PLAY/STOP,RECの2つのボタンを使って、あなたの演奏を録音、再生することができます。(P.14参照)

●TOUCH（タッチ）
タッチカーブを選択するボタンです。(P.20参照)

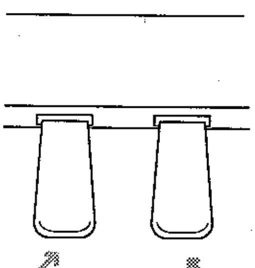
●TRANSPOSE
（トランスポーズ）
トランスポーズ機能を使えば、弾き方を変えずに簡単に移調できます。調の異なる楽器とのアンサンブルや、歌の伴奏をする時などに便利です。(P.10参照)

●FUNCTION
（ファンクション）
設定モードに入る時に使います。
(P.19参照)

●METRONOME
（メトロノーム）
メトロノーム音を鳴らします。
(P.12参照)

●DEMO（デモ）
デモ曲を演奏します。
鍵盤と合わせて押すことで選曲ができます。
(P.11参照)

●ペダル

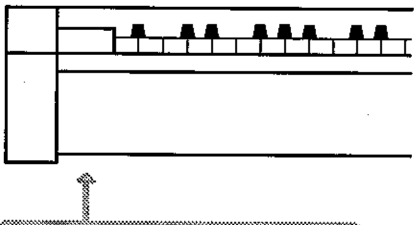


●ソフトペダル
音色がやわらかくなり音量も小さくなります。

●ダンパーペダル
鍵盤から手を離しても音が余韻をもって消えていくサスティンがかかります。

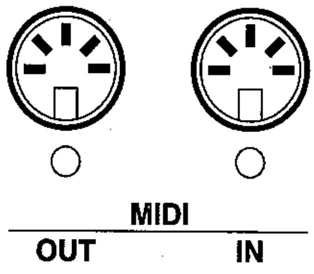
(P.8参照)

●ヘッドホン



●ヘッドホン端子（2個）
別売りのヘッドホン（SH-5,SH-2）を接続する端子です。ヘッドホンを2つまで接続できます。

●裏面



●MIDI（ミディ）
MIDI規格に対応している楽器などを接続するための端子です。(P.21参照)

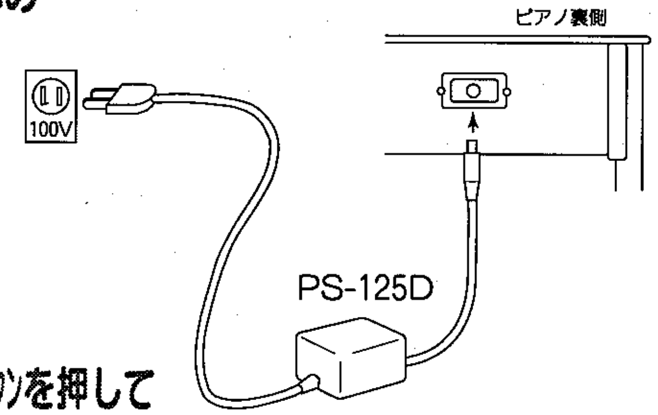
2.演奏してみましょう

ここでは、電源を入れ音を出すまでの基本的な手順を説明します。

1) 基本操作

□ **操作1**

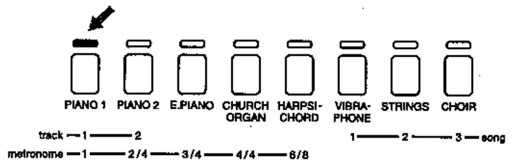
付属のACアダプターを本体のアダプター端子に差し込み、電源プラグをAC100Vのコンセントに差し込みます。

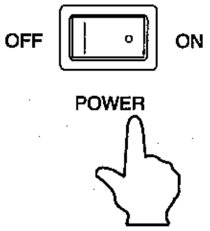


□ **操作2**

POWER（電源スイッチ)ﾎﾞﾀﾝを押して電源を ON にします。

電源を入れると音色セレクトﾎﾞﾀﾝ のPIANO 1ﾎﾞﾀﾝのランプが点灯します。

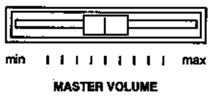




■ *電源を ON にした時は、自動的にPIANO1の音色が選択されます。*

□ **操作3**

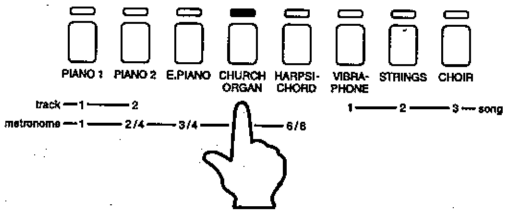
VOLUMEﾚﾊﾞｰを中央付近にセットします。



□ 操作 4
音色を選びましょう。

音色セレクトボタンの中から好きな音色を選んで押してください。
押された音色のランプが点灯し選択されます。

チャーチオルガンの音で演奏したい場合は、
右図のようにCHURCH ORGANボタンを押し
点灯させます。

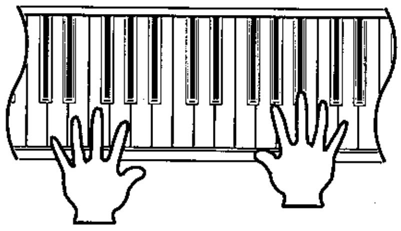


■ 内蔵音色

◆ **PIANO1** [ピアノ1]	KAWAIのグランドピアノの音です。
◆ **PIANO2** [ピアノ2]	ブライトピアノの音です。明るめなピアノの音です。
◆ **E.PIANO** [エレクトリックピアノ]	エレクトリックピアノの音です。
◆ **CHURCH ORGAN** [チャーチオルガン]	パイプオルガンの音で、教会などで賛美歌演奏に使われています。
◆ **HARPSICHORD** [ハープシコード]	バロック音楽などで使われている別名チェンバロの音です。
◆ **VIBRAPHONE** [ビブラホン]	ビブラホンは、大型の鉄琴です。下に取付けてある共鳴管により美しい共鳴が得られます。
◆ **STRINGS** [ストリングス]	弦楽合奏音です。バイオリン、ビオラ、チェロやコントラバスを同時に発音した音です。
◆ **CHOIR** [クワイヤー]	人の合唱の声です。

□ 操作 5
鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾けば "操作 4" で選んだ音で演奏することができます。
音量を調節したい時は、VOLUMEレバーで好みの
音量に設定してください。



■ 複数の鍵盤を同時に押した場合、最大24音まで発音します。

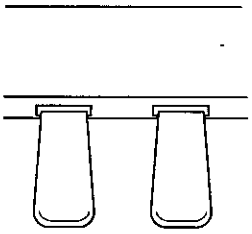
2) ペダルを使って演奏

本機には、ダンパー、ソフトと言う 2 種類のペダルを装備しています。
ここでは、それぞれのペダルの効果について説明します。

■ ダンパーペダル

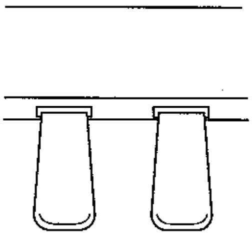
ダンパーペダルは、右側のペダルです。
これを踏むことにより、音に余韻を与えます。

ピアノの音は、鍵盤を押すとハンマーが弦をたたき、音が発音しますが、指を離すとダンパーが弦を止めて発音が止まります。
ダンパーペダルを踏むと指を離してもダンパーが弦を止めないため、音が止まらず豊かな響きが得られます。



■ ソフトペダル

ソフトペダルは、左側のペダルです。
これを踏むことにより、音量がわずかに下がると同時に、音の響きがやわらかくなります。



3) デュアル演奏

本機では、2つの音色を使って同時に演奏する事ができます。

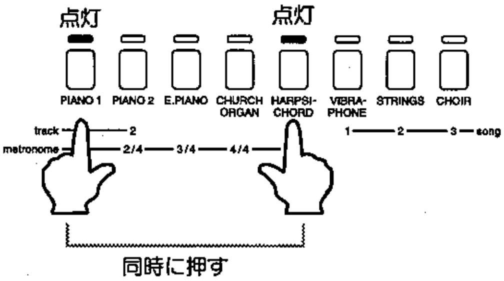
■ デュアル演奏

デュアル演奏では 2つの音色を重ね合わせて演奏する事ができます。鍵盤を弾けば、設定した2つの音色が同時に発音し、音に独特の厚みを与えることができます。

□ 操作 1
2つの音色ボタンを同時に押します。

押された2つの音色ランプが点灯します。

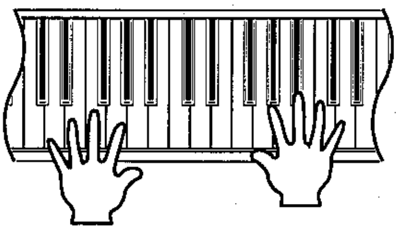
ピアノ1とハープシコードの音を重ね合せたい場合は、右図の様な操作になります。



□ 操作 2
鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾けば選択した 2つの音色が重なって発音されます。

■デュアル演奏では、同時発音数が 12音になります。



□ 操作 3
デュアル演奏を解除する時は、音色セレクトボタン のどれか 1つを押します。

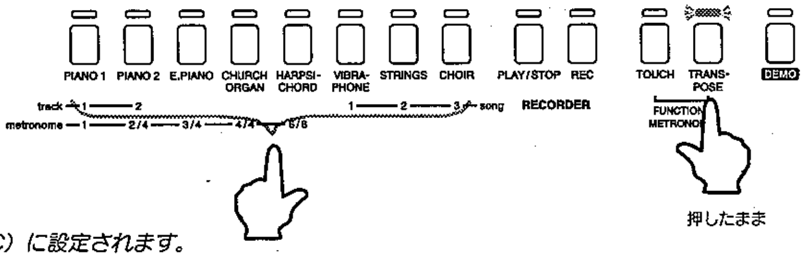
押し直した音色が選択されると同時にデュアル演奏の設定が解除されます。

4) トランスポーズ

調の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾き方を変えずに簡単に移調できます。本機では、TRANSPOSE ボタン を押しながら音色ボタンを押すことで -3音(F#)〜 +2音半(F)まで設定できます。

□ 操作1
TRANSPOSE ボタン を押し続けます。

TRANSPOSE ボタン のランプが点滅し現在セットされている調の音色ボタンのランプが点灯します。



■ *電源 ON 時はハ長調（C）に設定されます。*

□ 操作2
TRANSPOSE ボタン を押したまま変更したい調の音色ボタンを押します。

● PIANO1,PIANO2 ボタン を同時に押す。	＋半音	(C#)
● PIANO2 ボタン を押す。	＋１音	(D)
● PIANO2,E.PIANO ボタン を同時に押す。	＋１音半	(D#)
● E.PIANO ボタン を押す。	＋２音	(E)
● CHURCH ORGAN ボタン を押す。	＋２音半	(F)
● CHURCH ORGAN,HARPSICHORD ボタン を同時に押す。	－３音	(F#)
● HARPSICHORD ボタン を押す。	－２音半	(G)
● HARPSICHORD,VIBRAPHONE ボタン を同時に押す。	－２音	(G#)
● VIBRAPHONE ボタン を押す。	－１音半	(A)
● VIBRAPHONE,STRINGS ボタン を同時に押す。	－１音	(A#)
● STRINGS ボタン を押す。	－半音	(B)

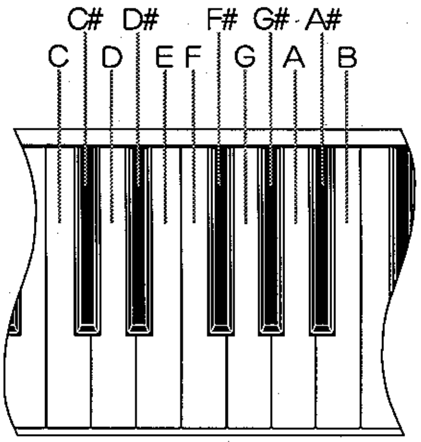
■ *TRANSPOSE ボタン のランプが点灯している時、トランスポーズ オンの状態となります。*
消灯時は、オフの状態です。

■ *TRANSPOSE ボタン のランプは、ハ長調（C）以外のキーにセットされている時に点灯します。*

5) デモ曲の演奏

本機には、下記12曲のデモ曲を内蔵しています。

No.	曲 目	選択鍵盤
1	乙女の祈り	C(ド)
2	エリーゼのために	C#(ド・シャープ)
3	トルコ行進曲	D(レ)
4	愛の夢	D#(レ・シャープ)
5	ノクターン　作品9-2	E(ミ)
6	ワルツ第2番『華麗なるワルツ』	F(ファ)
7	小犬のワルツ	F#(ファ・シャープ)
8	別れの曲	G(ソ)
9	幻想即興曲	G#(ソ・シャープ)
10	紡ぎ歌	A(ラ)
11	キラキラ星変奏曲	A#(ラ・シャープ)
12	貴婦人の乗馬	B(シ)

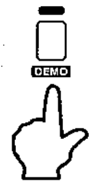


本機では、全曲を連続して再生する方法と、1曲づつ選択しながら再生する方法とがあります。

12曲のデモ曲を連続再生します。

□ 操作1

DEMOボタンを押します。

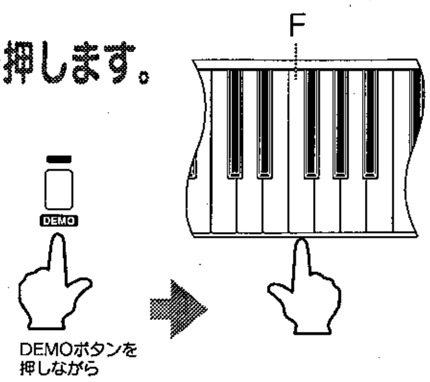


1～12曲の順でデモ曲が連続再生されます。
再度DEMOボタンを押すかPLAY/STOPボタンを押すまで繰り返されます。

選曲して再生します。

□ 操作1

DEMOボタンを押しながら希望の曲の鍵盤を押します。



上表の右端の欄が各曲に対応する鍵盤を表わします。
『ワルツ第2番『華麗なるワルツ』』を聴きたい場合は、
DEMOボタンを押しながら鍵盤F(ファ)を押します。
選択する時の鍵盤は、どの音域でもかまいません。
選択された曲は、繰り返し演奏されます。
再生を止める場合は、再度DEMOボタンを押すか
PLAY/STOPボタンを押します。

6) メトロノーム

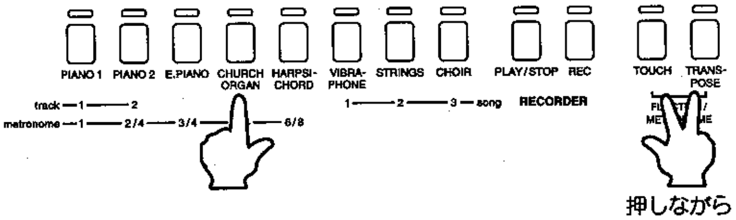
メトロノームを使って練習しましょう。
本機では、1/4拍子,2/4拍子,3/4拍子,4/4拍子,6/8拍子が設定できます。

□ 操作1

それぞれの設定は、TOUCH ﾎﾞﾀﾝ とTRANSPOSE ﾎﾞﾀﾝ を同時に押しながら対応する音色ボタンを押します。

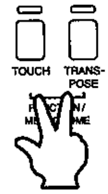
■1/4拍子	PIANO1 ﾎﾞﾀﾝ
■2/4拍子	PIANO2 ﾎﾞﾀﾝ
■3/4拍子	E.PIANO ﾎﾞﾀﾝ
■4/4拍子	CHURCH ORGAN ﾎﾞﾀﾝ
■6/8拍子	HARPSICHORD ﾎﾞﾀﾝ

4/4拍子のメトロノームを鳴らす場合は、TOUCH ﾎﾞﾀﾝ とTRANSPOSE ﾎﾞﾀﾝ を押しながらCHURCH ORGAN ﾎﾞﾀﾝ を押します。



□ 操作2

再度、TOUCH ﾎﾞﾀﾝ とTRANSPOSE ﾎﾞﾀﾝ を同時に押すとメトロノームは停止します。



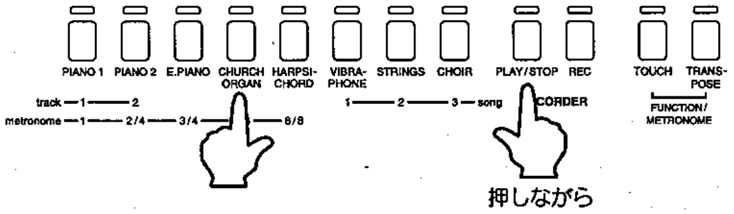
メトロノームのテンポ変更

テンポ変更の場合は以下の操作を行います。

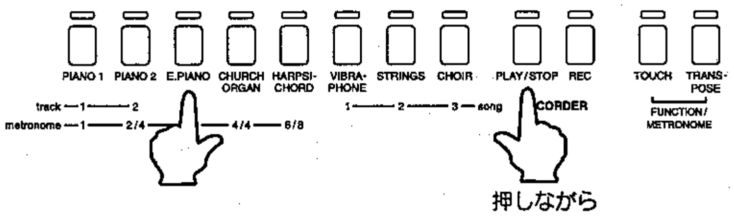
□ 操作 1

メトロノームを鳴らしているとき、REC ボタン もしくは PLAY/STOP ボタン を押しながら、CHURCH ORGAN ボタン を押すとテンポアップ，E.PIANO ボタン を押すとテンポダウンします。

■テンポアップ



■テンポダウン



テンポの値の初期値は ♩= 120 です。

♩= 40 ～ 200 の範囲で設定できます。

CHURCH ORGAN ボタン / E.PIANO ボタン を 1 回押す毎に ♩= 2づつ値を変化させます。

REC ボタンを使ってテンポ調整をした後、録音待機状態となります。
続けて録音する場合は、REC ボタンを押したままソングとトラックを選択します。(P.14 参照)
録音をしない場合は、希望の早さに設定したあと再度 REC ボタン を押して待機状態を解除します。

曲の再生時にメトロノームを使用する場合は、PLAY/STOP ボタンを使ってテンポ調整をします。
再度 PLAY/STOP ボタンを押して消灯させると、曲と同時にメトロノームも停止します。

3.録音・再生

1) 録音

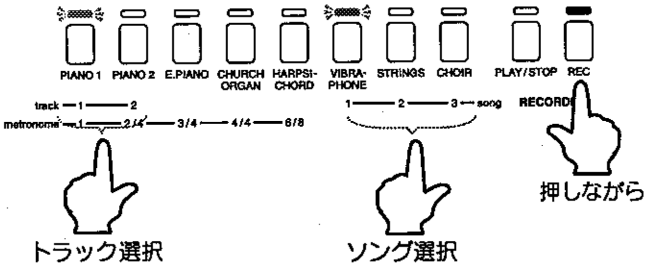
本機では、自分の演奏を3曲まで、録音し再生することができます。
それぞれの曲（ソング）は、2つのトラックから構成されており、1曲に2回の演奏を録音できます。
録音は、録音する曲（ソング）の番号とそのトラックを選択して行います。
song ﾎﾞﾀﾝ とtrack ﾎﾞﾀﾝ は、音色ボタンに対応しています。

□ 操作1

RECﾎﾞﾀﾝ を押しながらソングとトラックを選択します。

RECﾎﾞﾀﾝ を押した状態の時、song ﾎﾞﾀﾝ とそのtrack ﾎﾞﾀﾝが各1コづつ点滅しています。
この点滅しているボタンが録音の行われるソングとトラックです。
下図では、ソング1のトラック1が選択されています。

この時、song ﾎﾞﾀﾝ とtrack ﾎﾞﾀﾝを押して新たに録音するソングとトラックを変更できます。



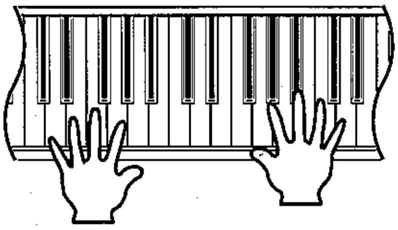
RECﾎﾞﾀﾝを押した状態で、点灯しているsong ﾎﾞﾀﾝとtrackﾎﾞﾀﾝ は、既に録音データが入っているということです。

録音するsong ﾎﾞﾀﾝ とtrack ﾎﾞﾀﾝを押して選択した後、REC ﾎﾞﾀﾝ を離すと点滅していたsong ﾎﾞﾀﾝ とtrackﾎﾞﾀﾝ のランプが消灯し、REC ﾎﾞﾀﾝ のランプが点滅し、録音待機状態となります。
また同時に音色のランプ（設定する以前に選択していた音色）が点灯します。
ここで録音を行う音色を選択すれば、その音色で録音されます。

□ 操作 2
鍵盤を弾いて録音をスタートします。

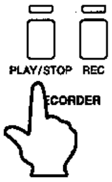
鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。
このとき、PLAY/STOP ボタン のランプが点灯します。

PLAY/STOP ボタン を押しても録音を開始できます。



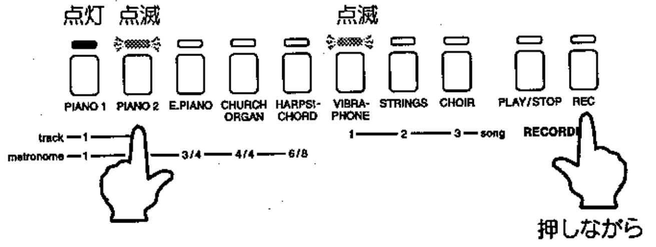
□ 操作 3
演奏が終わったらPLAY/STOP ボタン を押して録音を終了します。

REC ボタン とPLAY/STOP ボタン のランプが消え録音が停止します。



■ひき続き、トラック1 に録音した演奏を聞きながら、トラック2 の録音をしてみましょう。

□ 操作1
REC ボタン を押しながら track2 ボタン(PIANO2 ボタン) を押します。



指定した song1 ボタン と track2 ボタン のランプが点滅し、録音待機状態であることを示します。
また、track1 ボタン のランプが点灯していますが、トラック1 の録音内容が再生待機状態であることを示しています。

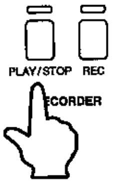
□ 操作2
鍵盤を弾きトラック2への録音を開始します。

鍵盤を弾くと自動的にトラック2 の録音が開始され、同時にトラック1 の演奏が再生されます。
このとき REC ボタン と PLAY/STOP ボタン のランプが点灯します。

鍵盤を弾かずに PLAY/STOP ボタン を押して録音をスタートさせることもできます。

□ 操作3
PLAY/STOP ボタン を押し録音を終了します。

演奏が終ったら PLAY/STOP ボタン を押して録音をストップします。
REC ボタン と PLAY/STOP ボタン のランプが消え、トラック2 の録音とトラック1 の再生がストップします。



■ *レコーダーの総記憶容量は、約 1,200 音です。録音中に記憶容量が一杯になったときは、録音が中止されます。　中止される直前までの演奏は録音されます。*

■ *レコーダーに記憶した内容は、本体の電源を切っても消えませんが、一度電源を切って一週間ほど電源を入れないでおくとレコーダーの内容が消えてしまいますので、ご注意ください。*

2) 再生

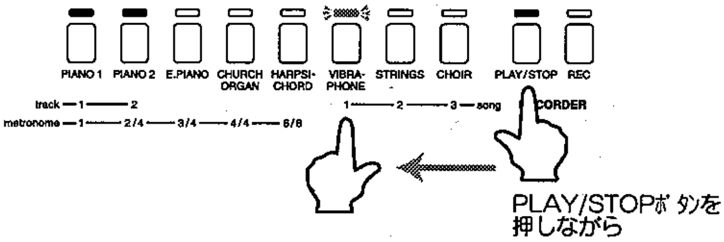
録音した曲を再生します。

□ 操作 1

PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ を押しながら再生するsong ﾎﾞﾀﾝ を押します。

選択したsong ﾎﾞﾀﾝは、点滅します。
PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ を押した状態で点灯しているsong ﾎﾞﾀﾝが録音されているボタンです。

ソング1を再生する場合は、下図の様にPLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ を押しながらsong 1 ﾎﾞﾀﾝを押して離します。



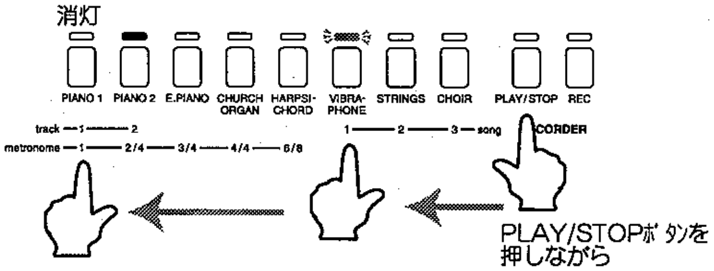
■トラックのミュート

ミュートとは、音を小さくすることです。
本機では、トラックのランプを消灯させることによってミュートすることができます。

ソング1のトラック1,2に録音された曲のトラック1をミュートする場合は、下記のような操作になります。

□ 操作 1

PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝを押しながらsong 1 ﾎﾞﾀﾝを押し
次にtrack1ﾎﾞﾀﾝ を押し消灯させます。



□ 操作 2

PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝから手を離します。

ソング1のトラック2のみ再生されます。

3) 曲の消去

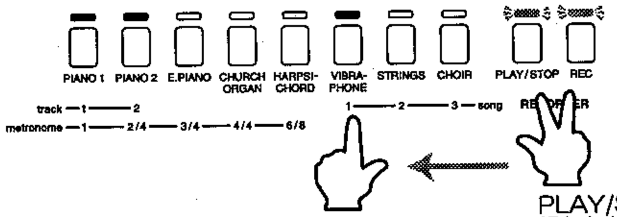
録音に失敗したり、いらなくなった曲を1曲ずつ消去します。

□ 操作1

PLAY/STOP ボタン とREC ボタン を同時に押しながら消去する song ボタン を押します。

PLAY/STOP ボタンと REC ボタン を同時に押すと録音されている song ボタン のランプが点灯します。
消去する song ボタン を押して点滅させ離すと曲の消去が実行されます。

ソング1を消去したい場合は、下図のような操作となります。



■ 消去を中止したい時は、PLAY/STOP ボタンと REC ボタンを同時に押したまま、もう一度点滅している song ボタン を押して点灯させます。

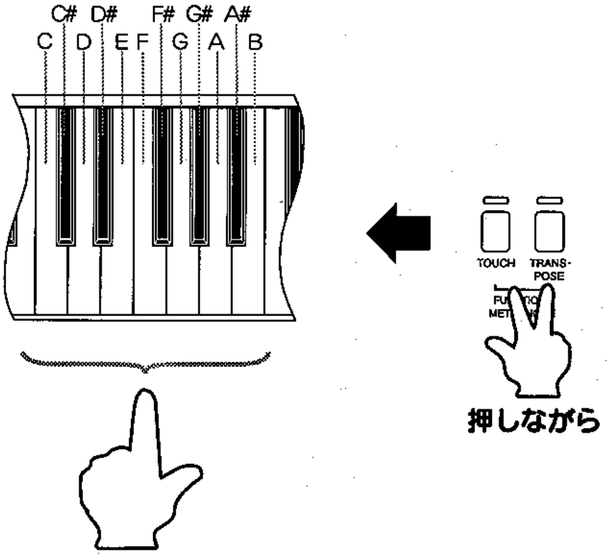
■ *複数のソングを消去するときは、繰り返し操作を行ってください。*

■ *録音されているすべてのソングを消去したい場合は、PLAY/STOP ボタンと REC ボタン を押したまま、電源を入れてください。*

4.設定モード

本機には、ピアノの演奏を楽しむために、いろいろな状態を設定することができます。
この設定を行う場所を " 設定モード " といいます。

設定メニューは、12 個の鍵盤に値や項目が割り振られており、TUNE ﾎﾞﾀﾝ とTRANSPOSE ﾎﾞﾀﾝ を同時に押しながら、対応する鍵盤を押すことにより設定できます。



■選択する鍵盤は、音域には関係なく
88鍵全鍵で設定できます。

●設定モードのメニューと鍵盤

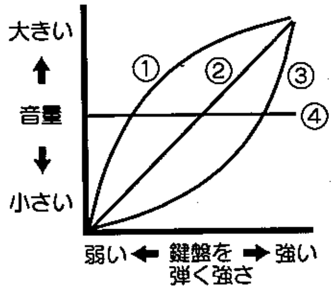
設定項目	鍵盤	初期値
1) タッチカーブ·セレクト	C(ド)/D(レ)/E(ミ)	ライト
2) チューニング	C#(ド・シャープ)/D#(レ・シャープ)	±0
3) MIDI送信·受信チャンネル	A(ラ)/F(ファ)	—
4) MIDIチャンネルを1にする	G(ソ)	1ch
5) ローカルコントロール	F#(ファ・シャープ)	オン
6) マルチ·ティンバー·モード	G#(ソ・シャープ)	オフ
7) プログラム(音色)ナンバー送信	A#(ラ・シャープ)	オン
8) リセット	B(シ)	—

■電源を入れたときは、ここで設定した値は自動的に初期値に設定されます。

1) タッチカーブ・セレクト

ピアノでは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと、音量もだんだん大きくなっていきます。
鍵盤を弾く強さと音量の関係を線グラフにしたものをタッチカーブです。

①ライト
弱いタッチで弾いても大きな音がでます。
小さなお子様や、オルガンプレーヤー向きのタッチカーブです。



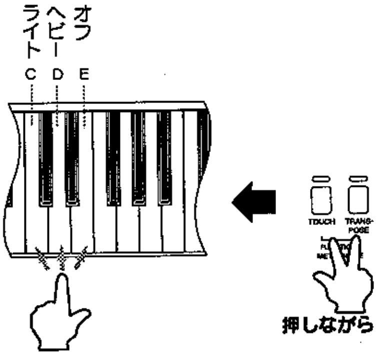
②ノーマル
アコースティックピアノと同程度のタッチで音量が変化します。

③ヘビー
強いタッチで弾かないと大きな音がでません。
指の力の強い人や練習向きのタッチカーブです。

④オフ
強く弾いても弱く弾いても常に一定の大きさで発音されます。

□ 操作1

TOUCH ﾎﾞﾀﾝ とTRANSPOSE ﾎﾞﾀﾝ を同時に押しながら、鍵盤C(ド)を押すとライト、鍵盤D(レ)を押すとヘビー、鍵盤E(ミ)を押すとオフに設定されます。



ここで設定したタッチカーブは、TOUCH ﾎﾞﾀﾝ を押して点灯させたときに有効となります。
TOUCH ﾎﾞﾀﾝ 消灯時は、ノーマルに設定されています。
電源をいれたときは、ライトに設定されています。

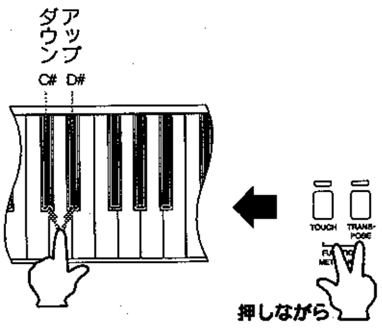
2) チューニング

チューニング調整は、他の楽器とピッチ（音程）を合わせるときに行います。

□ 操作1

TOUCH ﾎﾞﾀﾝ とTRANSPOSE ﾎﾞﾀﾝ を同時に押しながら、鍵盤D＃(レ・シャープ)を押すとピッチがアップ、鍵盤C＃(ド・シャープ)を押すとダウンします。

鍵盤D＃(レ・シャープ)を押す度にピッチが上がり、
鍵盤C＃(ド・シャープ)を押す度にピッチが下がります。
チューニングできる範囲は±50セントで1回押す毎に
1.5セント変化します（100セント＝半音）



■ MIDI 機能の使い方

ここで、MIDI について説明をしておきます。

● MIDI について

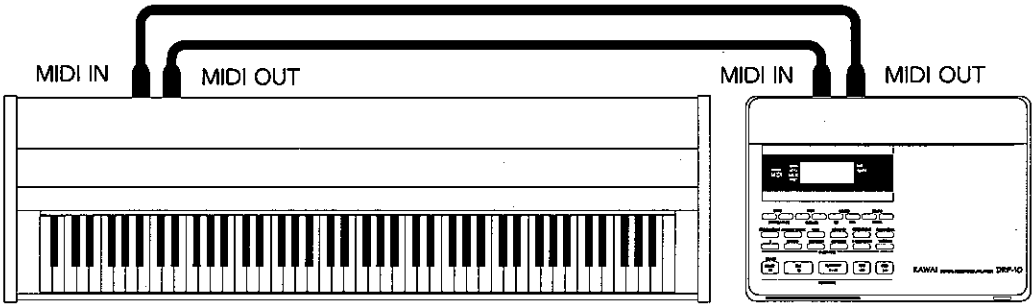
MIDI について簡単に説明します。
MIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interfaceの略称で、シンセサイザーや シーケンサーなどの電子楽器間を接続しお互いの情報をやりとりするするための世界統一規格です。

MIDI 端子には、IN, OUT の2種類があります。いずれも MIDI 専用ケーブルで接続します。

IN　：　鍵盤情報や音色情報を受信します。
OUT　：　鍵盤情報や音色情報を送信します。

MIDI には、チャンネルというものがあります。チャンネルには、受信チャンネルと送信チャンネルの２種類があり、通常の場合、MIDI 機能をもった楽器はこの両者を備えています。
受信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器から情報を受信する場合のチャンネルで、送信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器へ情報を送信する場合のチャンネルです。

■シーケンサーを使っての録音 / 再生



図の様にカワイのシーケンサー DRP-10 に接続すれば、電子ピアノの演奏をシーケンサーに録音し、それを再生することができ、電子ピアノの練習に役立てることができます。また、電子ピアノの設定をマルチティンバーオン（P.24 参照）にして録音 / 再生を行えば、ピアノ、ハープシコード、ビブラフォーンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。
また、DRP-10 の場合音源も内蔵してますので、その内蔵音色を使ってピアノ演奏を楽しむこともできます。

●本機 MIDI 機能

本機の MIDI 機能は、以下の通りです。

◆ 鍵盤情報の送信・受信

電子ピアノを弾いてシンセサイザー等から音を出したり、その逆が可能です。

◆ 送信・受信チャンネルの設定

送信受信チャンネルを 1 ～ 16 の範囲で設定することができます。

◆ プログラム（音色）ナンバーの送信

電子ピアノと MIDI で接続したシンセサイザー等の音色（プログラムされた音色）を電子ピアノ側の操作で変えたり、その逆が可能です。

◆ ペダル情報の送信・受信

ダンパーペダル、ソフトペダルのオン / オフ情報の送信・受信ができます。

◆ ボリューム情報の受信

シンセサイザー等を弾いて、電子ピアノの音を出しているとき、シンセサイザーで電子ピアノの音量をコントロールすることができます。

◆ マルチティンバーの設定

電子ピアノが受信楽器になっているとき、複数の異なるチャンネルで鍵盤情報を受信して、各々別の音を出すことが出来ます。

◆ エクスクルーシブデータの送信・受信

フロントパネルの操作や設定モードで変更した設定をエクスクルーシブデータとして送信受信ができます。

◆ レコーダーの再生情報の送信

レコーダーに録音した演奏を、MIDI で接続した電子楽器で鳴らしたり、外部シーケンサーに録音することができます。

本機の MIDI 機能についての詳細は、" MIDI インプリメンテーションチャート "（巻末）をご覧ください。

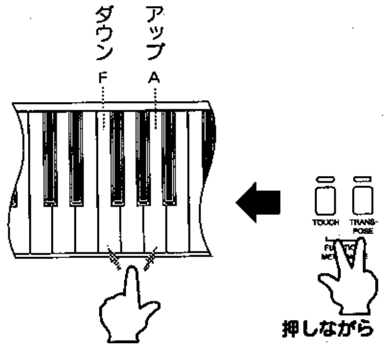
3) MIDI送信・受信チャンネル

接続されたMIDI楽器といろいろな情報をやりとりするために楽器同士のチャンネルを合わせておくことが必要です。
チャンネルは、送信チャンネルと受信チャンネルの 2 種類がありますが、本機ではそれぞれ別々のチャンネルに設定することはできません。1つのチャンネルを設定してそれが送信・受信両チャンネルを兼ねています。

□ **操作 1**

TOUCH ボタン とTRANSPOSE ボタン を同時に押しながら、鍵盤 A(ラ)を押すとアップ、鍵盤 F(ファ)を押すとダウンします。

鍵盤 A(ラ)を押す度にチャンネル番号が増えていき、
鍵盤 F(ファ)を押す度にチャンネル番号が減っていきます。
MIDI チャンネルは、1～16 の間で設定できます。
電源を入れたときは、1 チャンネルに設定されます。

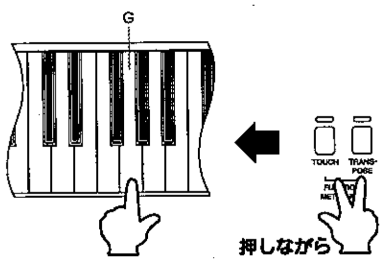


4) MIDIチャンネルを1にする

MIDI チャンネルを 1 チャンネルに設定します。

□ **操作 1**

TOUCH ボタン とTRANSPOSE ボタン を同時に押しながら、鍵盤 G(ソ)を押します。



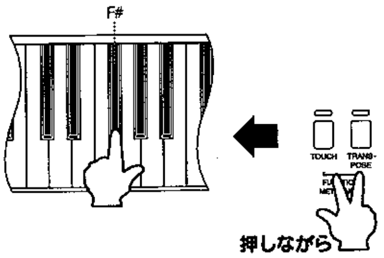
5) ローカルコントロール

ここでは、本体の鍵盤を弾いて音を出すか、出さないかの設定をします。
ローカルコントロールが ON のときは、通常通り鍵盤を弾けば本体の音が鳴ります。
一方、ローカルコントロールが OFF の時は、鍵盤を弾いても音は鳴らず MIDI 情報を MIDI OUT します。
このとき、MIDI 情報を受信したときのみ音が鳴ります。

□ **操作 1**

TOUCH ボタン とTRANSPOSE ボタン を同時に押しながら、鍵盤 F #(ファ・シャープ)を押します。

鍵盤 F #(ファ・シャープ)を押す度に ON/OFF が交互に設定されます。
電源を入れた時は、ON に設定されます。

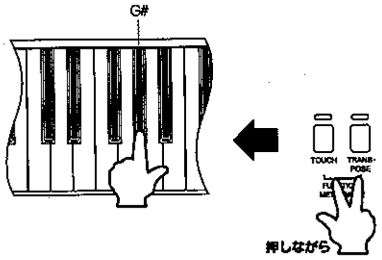


6) マルチティンバー・モード

通常は、設定されたMIDIチャンネル（1～16のどれか1つ）で情報を送受信しますが、マルチティンバー・モードをオンすることにより、複数のMIDIチャンネルを受信して各々のチャンネルに対応した異なる音色を同時に出すことができます。
この機能により、外部のシーケンサーを使って、本機1台で複数の音色（マルチティンバー）によるアンサンブル演奏が可能です。

□ 操作1

TOUCHボタンとTRANSPOSEボタンを同時に押しながら、鍵盤G#(ソ・シャープ)を押します。



鍵盤G#(ソ・シャープ)を押す度にON/OFFが交互に設定されます。
ONに設定すると受信したMIDIチャンネルに対応して下表の音色がなります。
電源を入れたときは、OFFに設定されています。

チャンネル No.	音色	チャンネル No.	音色	チャンネル No.	音色
1	PIANO1	6	CHURCH ORGAN	10	-
2	PIANO2	7	HARPSICHORD	11	-
3	E.PIANO	8	VIBRAPHONE	12	STRINGS
4,5	-	9	-	13	CHOIR

7) プログラム（音色）ナンバー送信

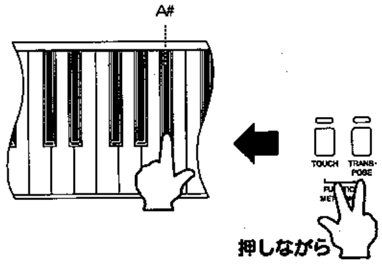
プログラムナンバーを送信するかしないか設定します。
本機では、通常の演奏中に8個の音色セレクトボタンを切り替えることにより、右表のようなプログラムナンバーを送信できるようになっています。（プログラムナンバー送信オン）

この音色セレクトボタンによるプログラムナンバーの送信をするか、しないか（オン / オフ）を設定することができます。

音色セレクトボタン	プログラム・ナンバー
PIANO1	0
PIANO2	1
E.PIANO	2
CHURCH ORGAN	5
HARPSICHORD	11
VIBRAPHONE	6
STRINGS	7
CHOIR	12

□ 操作1

TOUCHボタンとTRANSPOSEボタンを同時に押しながら、鍵盤A#(ラ・シャープ)を押す。



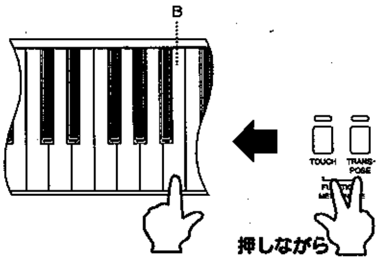
鍵盤A#(ラ・シャープ)を押す度にON/OFFが交互に設定されます。
電源を入れた時は、ONに設定されています。

8) リセット

設定モード内で設定した内容を初期の状態（Page...19 参照）にします。

□ 操作 1

**TOUCH ﾎﾞﾀﾝ とTRANSPOSE ﾎﾞﾀﾝ を同時に押しながら、
鍵盤 B(シ)を押す。**



■ 主な仕様

■ 鍵　盤	88鍵
■ 同時発音数	24（デュアル使用時12）
■ 音　色	ピアノ1/2、エレクトリックピアノ、チャーチオルガン、ハープシコード、ビブラホン、ストリングス、クワイヤー
■ その他の機能	ボリューム、トランスポーズ、チューニング、デュアル、デモ（12曲） タッチカーブ選択（ライト、ノーマル、ヘビー、オフ）
■ レコーダー	2トラック×3ソング、総記録容量　約1,200音
■ メトロノーム	1/4、2/4、3/4、4/4、6/8拍子
■ ペダル	ダンパー、ソフト
■ 外部端子	ヘッドホン（2）、MIDI（IN、OUT）
■ 出　力	7W×2
■ スピーカー	12cm×2
■ キーカバー	ピボット式（回転式）
■ 定格電圧	AC100V、50/60Hz
■ 消費電力	20W
■ 仕上げ	ブライト・コスモブラック
■ 寸　法	（W×D×H）137×45×79（セットアップ時）
■ 重　量	42Kg
■ 付属品	ACアダプター(PS-125D) / 取扱説明書 / 保証書

KAWAI [Model PN85] MIDI IMPLEMENTATION CHART

Date : OCT, '97
Version : 1. 0

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1 ～ 16	1 1 ～ 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *********	モード1 モード1.3 ** ×	** 電源ON時オムニ・オン。 MIDIチャンネル設定操作によりオムニ・オフ。
ノート ナンバー	音域	21 - 108* *********	0 - 127 15 - 113	
ベロシティ	ノート．オン ノート．オフ	○ 9nH v=1-127 × 8nH v=0	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ．ベンド		×	×	
コントロール チェンジ TOYOTOMI	7 64 67	× ○ (右ペダル) ○ (左ペダル)	○ ○ ○	ﾎﾞﾘｭｰﾑ ﾀﾞﾝﾊﾟｰ ｿﾌﾄﾍﾟﾀﾞﾙ
プログラムチェンジ 設定可能範囲		○ (0 - 127) *********	○ (0 - 127)***	
エクスクルーシブ		○	○	送信選択可能
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカルON／OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	○ ○ ○ ×	
備考		* 15-113 トランスポーズによって変化する。 *** 8-127=0 (マルチティンバーOFF/1時) 15-127=0 (マルチティンバー2時)		

モード1：オムニオン、ポリ　　モード2：オムニオン、モノ
モード3：オムニオフ、ポリ　　モード4：オムニオフ、モノ

○: 有り
×: 無し

97010
Printed in Japan

株式会社河合楽器製作所
電子楽器事業本部
〒430-8665
浜松市寺島町200番地
TEL 053-457-1277
FAX 053-457-1279